

第5回門真市魅力ある教育づくり審議会議事録

開催日時 平成29年8月16日（水） 午後2時～午後4時33分

開催場所 市役所別館3階 第3会議室

出席者 佐久間敦史、新谷龍太郎、森田英嗣、片山仁、川村早余子、小林美鈴、横貫照国、国吉孝、上甲尚、中川智広

事務局 満永教育部長、水野教育部次長、寺西教育部総括参事、中野教育総務課長、高山学校教育課参事、黒木教育総務課長補佐、松岡教育総務課副参事、永田教育総務課主査

傍聴者 1名

議 事

開会と資料の確認

森田会長

本日はご多忙の中、前回は台風で流れてしまったのですが、日程の調整ありがとうございます。みなさん大変お忙しいところ、「第5回門真市魅力ある教育づくり審議会」にご出席いただき、ありがとうございます。

定刻となりましたので、審議会を開催させていただきます。

まず初めに、事務局から、資料の確認をお願いします。

事務局（中野教育総務課長）

教育部教育総務課長の中野でございます。よろしくお願ひいたします。

まず、お手元の資料の確認をさせていただきます。

1点目が配席図、2点目が会議次第、3点目は少し分厚いのですが、資料1として「第4回門真市魅力ある教育づくり審議会議事録」、全体会と各部会の3部ございます。4点目が資料2「第4回門真市魅力ある教育づくり審議会各部会での意見（まとめ）」です。5点目が資料3「中間答申書（案）」。6点目、資料4「門真市魅力ある教育づくり審議会 今後の流れ（案）」となっております。

皆さま、すべてお手元にごございますでしょうか。

○1. 第4回審議会の報告について

森田会長

それではまず、案件1「第4回審議会の報告について」でございます。
事務局から説明をお願いいたします。

事務局（中野教育総務課長）

それでは説明させていただきます。資料2「第4回門真市魅力ある教育づくり審議会各部会での意見（まとめ）」をご覧ください。前回、各部会で議論していただき、各部長より発表いただきました意見をまとめさせていただいておりますので読み上げさせていただきます。

つながりのある教育の創造部会での意見としましては、「35人学級も含め、さらなるきめ細かな指導のための有効な施策はないか」ということで議論をした。多くの委員が言っていたのは、きめ細やかな指導には一人でも子どもが少ないという状況は大切だということである。しかし財政のことも考え、同じ金額ならそれだけの効果がしっかり出せることも考えても良いのではないかという意見もあった。」

「現行の35人学級事業において、きめ細かな指導ができているという定性的な効果が十分に出ている反面、定量的な効果が出ているかどうかは明確には見えてこないという説明もあったことから、今後、学校の裁量で柔軟に活用できる人材を配置するなど、制度の改善も検討をして良いのではないか。」

「教員の多忙感を少しでも解消するために、様々な仕事をしてもらえる人材を配置するのはどうか。例えばボランティアを学校に配置し、教室にいてもらうだけでも、かなり教育効果が上がるのではないか。」

「知り合いの学校教員で過労死された方がおり、真面目に一生懸命になっていて相当な負担があったと聞く。教師の負担はどのようなところにあって、それを解消するためには何が必要かという議論が大切である。」

「教員、とりわけ担任は授業以外に保護者対応や事務仕事が多い。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の人材を積極的に増やすなどして、子どもたちのサポートに当たってくれたら、担任の負担も減るのではないか。」

「教員の悩みを聞くカウンセラーも学校に配置すれば、教員も心の負担が軽減され、ゆとりを持って子どもたちに対して、きめ細やかな指導に当たれるのではないか。」

「人的環境だけではなく、廊下やトイレも綺麗であるなど、学校の設備も含め環境が整った学校の子どもたちは落ちついた様子になっている。」

「事務局からのプレゼンテーションにあったような他市の義務教育学校のような学校が門真にもあったらよいと思う。」

「つながりのある教育ということ言えば、同じ職員室で1年生から9年生の教員が、9年間の子どもの育ちを連携して見ることができる施設一体型の学校が理想的であろう。」

「施設一体型にした時のデメリットとして、例えばいじめが起こった時にその人間

関係で9年間過ごすということになりはしないかということや、当面は旧の小学校2校の文化の違いなど、馴染めない時期が続くのではないだろうかということ、子どもには一定成長の段階で超えられる程度の段差は成長するうえで必要ではないかということなどが挙げられる。」

「段差については思春期でもあり、親と話さなくなるような自然な形の段差が子どもたちにはある。今の6 - 3制が例えば4 - 3 - 2制になったとしても、4年生から5年生に上がるころ、あるいは6年生から7年生に上がるころで、学校として少し何か取組をすれば、1つ上に成長したんだなという意識が子どもたちに得られるのではないか。4年生から5年生になる段階で教科担任制等を取り入れるという措置もできるのではないか。」

「門真市でも小中の一貫教育を推進しており効果は上がっているが、学期に1回とか夏季休業中などに会議を行っている。日常的な業務の中では、小中連携の一層の推進に向けては課題がある。」

「門真市においても、学力の向上とか、地域の防災拠点になるなど、地域へのメリットが発揮できるような義務教育学校がモデル校としてできたら良い。」

「今後義務教育学校等の事例も紹介していただいて、もう一度議論したい。」

という意見になっております。

続きまして、子どもの学ぶ意欲向上部会での意見です。

「35人学級について、学力の低位層が減っているのかどうかといった点でもデータを見ていく必要がある。同じ学年集団を継続的に追っていくデータがもう少し蓄積されないと、今のデータだけでは十分に成果検証できないだろう。効果を判断するには時期尚早かも知れない。」

「実験等であれば、少人数であれば机間巡視が行いやすい。人数が40人ぐらいに増えると、教室の空間の空具合も狭くなり、雑然となることもある。」

「1クラスで少人数というのは、寂しい状況もあるので、クラスの人数が多くても複数の先生で入った方がいいのではないか。」

「クラス人数が頻繁に変わるのではなく、ある程度安定して継続した方がいいのではないか。」

「中学校では、教室に入り辛い生徒が通う校内適応指導教室等に5、6人の教員が付いているという現状があり、専門の人材がいると助かる。」

「中学校では35人学級事業によって、学級数が増えることで教員の授業時数が増えてしまう。学校によって加配教員をどのように使いたいのかについては状況が違うので、学校の裁量・自由度を高める必要がある。」

「中学校の場合は少人数にして、例えばクラス数を4クラスから5クラスにした場合、同じ教科を別の教員が指導することになり、評価の仕方とか授業方法がずれることもあり得る。」

「小学校では、1クラスだけでずっと学年が進むと、子どもどうしあるいは教員との人間関係が固定化されてしまうという弊害があるのではないか。」

「子どもの主体的な学びの育成については、教科によって、子どもの学ぶ意欲の引き出しやすさが変わってくる。理科などであればもともと「不思議」「なぜ」という仕掛けを作りやすいが、数学の場合は例えば工作から入るなど、仕掛けを作るための準備が必要になる。英語の場合は話し合い活動を効果的に盛り込むことが重要である。また、学校によっては「英語プレゼンコンテスト」が学ぶ意欲の動機になっているところもある。」

「授業の導入が良くても、生徒にとっては学習意欲が十分にわかず、途中で学習自体をあきらめてしまう、くじけることもあるので、どのようにして粘り強い学習につなげていくのかが、必要になる。」

「新しい学習指導要領の中で、主体性の項目として興味や関心を高める、見通しを持つ、粘り強く取り組む、振りかえて自覚するという4項目があるが、これは採用面接を行った側からすると、まさにこの項目が社会人の採用試験では問われるところで、小中学校からこれに取り組むことは意味がある。」

「門真では外国につながりのある方々が多いということを強みにして、地域のボランティアを巻き込み、中国語や韓国語を勉強するという取組を行っても良いのではないか。」

「教員が子どもたちに向き合う時間を作るために地域の力を生かし、教員が授業に専念できるような心の余裕を作ることが必要である。」

「クラブ活動や生徒会行事等も上記の4項目を達成に資するものである。」

「クラブ活動は子どもの主体性の伸長に有効だろうが、男女の区別があり、自分の子どもは希望のクラブに入れず、試合に出ることもかなわない。他校の練習に合同で参加することも難しい状況がある。」

「現状では中学校によってクラブの数や種目は違うので、サッカーがしたくても、自分の行く学校にはそのクラブがないこともある。」

「クラブを中心に学校が選べるという状況になったとして、これまでの小学校での人間関係を継続して、やりたいクラブがなくとも地元の学校に行くのか、それもとやりたいクラブを重視して別の中学校を選ぶのかという問題がある。自宅からの距離のこともあり、選択できる状況ができたとしても、どれほどの人数が動くか予想するのは難しい。」

「土日のクラブ活動に地域の人材等を活用して、引率等を頼めるのであれば、教員のライフスタイルそのものが変わるぐらい助かるのではないか。ただし、外部人材による生徒指導等は難しい場合もあるので、運用面では気をつける必要がある。」

以上でございます。

森田会長

それでは、事務局から説明のあったお手元の資料2に沿って、ご確認していただいたところですが、何か気づいた点やご意見、ご質問はありませんか。

森田会長

よろしいですか。非常に多角的なご意見をいただいたところでございます。それではご質問、ご意見ないようですので、この内容でまとめさせていただきたいと思えます。

○2. 第5回審議会の進め方について

森田会長

では、案件2.「第5回審議会の進め方について」でございます。
事務局から説明をお願いします。

事務局（中野教育総務課長）

今回の審議会におきましては、前回までの審議会を踏まえて森田会長にお作りいただいた「答申書（案）」を基に、「中間答申」を完成させていただきたいと存じます。事前に委員の皆様方にも送っておりますが、討議しやすいよう森田会長作成の「答申書（案）」をプロジェクターに投影いたします。

項目ごとに事務局が読み上げてまいりますので、皆様からご意見をいただき、変更・加筆があれば、その都度、修正をさせていただきたいと思っております。

なお、本日、答申書について、審議委員皆様のご承認をいただけましたら、準備が整い次第、教育長に対し、平成28年11月1日付、教育委員会からの諮問に対する中間答申として、手交、即ち、皆様にてご審議いただいた提言を森田会長より教育長に手渡していただきたいと思いますと考えております。

第5回の審議会の進め方に関しましては以上です。

森田会長

ありがとうございました。今日は答申書をできれば完成させて、可能であれば手交までしたいと思っております。この進め方について、いかがでしょうか。これから「答申（案）」プロジェクターで投影して、これを敲き台にして皆様方の意見を頂きながら、中間答申を作成していきたいと思っております。何かご意見、ご質問はありませんか。

森田会長

よろしいでしょうか。

○3.「答申書（案）について」の説明

森田会長

それでは、案件3.「答申書（案）」についてであります。先日の第4回審議会の最後に申し上げた通り、会長といたしまして答申案をまとめましたので、ここに提示させていただきます。

答申案作成にあたりましては、別添の資料のとおり事務局にこれまでの審議の概要やそこで佐久間部会長・新谷部会長から出された意見のまとめをもとに、私なりにそこからエキスを抽出して、答申案としてまとめさせていただきました。

今、ご説明がありましたとおり、皆様方には事務局をとおして送付をさせていただき、事前に意見等をいただいておりますところですが、段落ごとに進めてまいりますので、その都度、ご発言をいただきますようお願いいたします。

本日は、この答申案を皆さん方と再度読み合わせを行い、質疑等も行いながら、文章表現等について加筆・修正等、変更すべき点などがあれば、その場で訂正を行い、先程事務局から説明いただきました通り、門真市教育委員会教育長に対し、私から委員の皆様方の前で代表して手交できればと思います。

限られた時間ではありますが、よろしく申し上げます。門真市の子どもたちの未来のため、この提言をもとに教育委員会として、次年度に向けた事業を検討していただきたいと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

では早速、事務局に朗読していただき、意見交換を行いたいと思います。

事務局、準備をお願いします。

事務局（中野教育総務課長）

それでは、事務局より項目毎に朗読させていただきます。

「1.はじめに。門真市魅力ある教育づくり審議会では、門真市教育委員会から「門真市教育振興基本計画の理念に基づく教育のあり方について」の諮問を受け、本審議会を計4回開催し、内3回は、「子どもの学ぶ意欲向上部会」及び「つながりのある教育の創造部会」に分かれて、門真の子どもたちにとってより良い教育のあり方の議論を深めてまいりました。

本審議会の審議は継続中ではありますが、現時点での「門真市教育振興基本計画」における施策展開の方向性などについて、審議結果を次のとおり中間答申としてまとめましたので、門真市教育委員会として、平成30年度の施策立案に活かしていただくよう提言します。」

以上でございます。

森田会長

「はじめに」の部分を読んでいただいたのですが、ここまででお気づきの点などございますでしょうか。

なお、本日欠席の委員からは答申内容については事前に了解をいただいております。

森田会長

小さいことでも構いません。

森田会長

では、続いて事務局、よろしくお願いします。

事務局（中野教育総務課長）

2. 提言の(1)について、朗読させていただきます。

「(1) 確かな学力と豊かな心を育むために。子どもの夢と幸せを育むため、主体的かつ意欲的に取り組むことができる学習環境を整えることはもとより、授業・学級活動・学校行事・クラブ活動・職場体験学習等を通して、子どもたちが自己肯定感を高める機会を増やして行く必要があります。

現在、門真市で行っている「開発的生徒指導」については、子どもと教員・大人との信頼関係を基盤とした指導を大切にしており、共感的な人間関係を築いていく中で、自尊感情を高め、将来の自己実現につながるものが期待されるものであり、引き続き、学校現場への浸透を図りつつ、充実・発展させていく必要があると考えます。

また、子どもたちの多様な学びの機会の実現のため、サタスタやまなび舎など、地域や関係機関と連携した取組を引き続き充実させるとともに、今後の学習指導要領改訂を踏まえ、より多様な人間関係の中で主体的・対話的な授業を一層進めるため「門真市版授業スタンダード」の改善及び周知と普及に力を入れるよう求めます。」

以上でございます。

森田会長

この部分についてはいかがでしょうか。

国吉委員

われわれは関係している者なので、例えば、「サタスタ」や「まなび舎」という言葉から想像できる部分があるのですが、全く知らない方がその部分を見た場合には、これはいったい何かなと思うと思いますので、説明が必要なのではないのかと思うのですが。

森田会長

注意書きがよいのか、正式名称を入れるかですかね。

森田会長

答申の中に注意書きが付くのはあまり見たことがないですね。他のみなさんはどうですか。

国吉委員

正式名称でも分かりやすくなりますね。

森田会長

正式名称を入れておきましょうか。分かりやすくなりますね。「サタスタ」や「まなび舎」の部分ですね。

森田会長

他にありませんか。遠慮なさらずにいろいろなご意見を聞かせていただければと思います。

佐久間委員

2点あります。下から三行目の「今後の学習指導要領改訂を踏まえ」とありますが、もう改訂されていますので、「今後の」になりますと、次の学習指導要領になってしまいます。

佐久間委員

「今般の」とか「今回の」、あるいは年度を入れてしまうかですね。

森田会長

改訂であれば、「今回の」でいいですね。

佐久間委員

2点目ですが、「門真市版授業スタンダード」の改善及び周知と普及に力を入れるよう求めます。」とありますが、私の部会では議論がなかったのも、何のことははっきり分からないので、具体的なことを教えていただきたいです。そもそも「門真市版授業スタンダード」というのがどんなものなのかということが気になるのですが。

森田会長

「門真市版授業スタンダード」について、ここで配布されましたか。

これについては、教育センター長さんからも改善の必要があるとのご意見もいただいていますので、「改善及び周知と普及に力を入れる」とのことなのですが。何のことが分かりにくいということですか。そのものが分かりにくい。

佐久間委員

そのものが分かっていないので、何を改善するのもよく分かっていないですし、どのように改善するのもよく分からない。そもそもスタンダードというものがいいのかどうかという問題もありますので。

森田会長

スタンダードというものがいいのかどうか。

佐久間委員

スタンダードを作ることが。ものによるとは思いますが。つまりは枠を作るとか標準を作るといことですので、作り方によってはとんでもないものになりますし、作り方によってはいいものになるかもしれません。それを「改善」という言葉でまとめられているのかもしれませんが。

事務局（満永教育部長）

委員長、発言よろしいでしょうか。

前回、教育センター長が学習指導要領改訂について、みなさま方にお話させていただいた中で『門真市版授業スタンダード』について言及しました。

これは、門真市教育委員会が森田教授に部会長として学力向上対策委員会を4年程前に開催しまして、授業・家庭学習・生徒指導・学校組織の改善の4点にわたる提言をいただきました。とりわけ授業改善を進めるに当たり、門真の授業スタンダードを作成した訳です。近年経験の浅い教員が増えてきており、なおかつアクティブ・ラーニングが言われ始めましたので、最初に目当てを提示して、それを自分で吟味して、さらに複数で、あるいは全体で意見交換し、さらに自分に返して、1時間を振り返るといったプロセスを重視したスタンダードとなっております。

それがこの4年間、各小中学校で進められてきたのですが、1点、前回センター長も申し上げましたが、型にはまりすぎている。もう少し子どもの姿を見る必要がある。最初にねらいを示して、そしてひとりで考えて、複数・全体で考えて、個人に戻すというパターンの学習をやっているならば、アクティブ・ラーニングができたと思込んでしまうことに反省すべきではないかという課題が見えてきました。

やはり子どもの実態や子どもの一人ひとりの発達段階をしっかりと見据えて授業づくりを行わなければならないのではないのかという視点を持って今、教育センターが各校の学力向上担当者と共に改善を図っています。

そこに新学習指導要領で言われている主体的・対話的で深い学びを入れていこうとしているわけです。「活動あって学びなし」では困ります。スタンダードが先走りしているのではないのか、そこに子どもの姿をしっかりと反映していかなければならないという視点で改善をしていかなければならないということです。

つまり、すでにあるスタンダードを子どもを一層しっかりと見据えたものに改善していこうという主旨で、センター長はスタンダードを改善し、そのことを広く学校に周知し、新たな考え方として普及させていこうという考えのもと意見を述べたわけです。

森田会長

そういう経緯でございまして、実際、動き出しているものです。その使い方や内容の周知、普及、改善について検討していただきたいということでした。

新谷委員

今の点について、少し補足ですが、資料1の「第4回門真市魅力ある教育づくり審議会（第3回子どもの学ぶ意欲向上部会）議事録」の22ページで、このときは、言語の力を育成することに資する取組と、主体的な学びに向かうための授業の在り方が部会のテーマとしてありました。この日は35人学級のことを中心で、あまり検討されていなかったのですが、今の改訂された学習指導要領で社会に開かれた教育課程ということテーマにして、これまでの授業の在り方を検討する必要があるということをお話合っていました。そのときは門真市教育振興基本計画の6ページや13ページにアクティブ・ラーニングであったり、門真市授業スタンダードの改訂がありましたので、この事を少し念頭に置いて議論していたと記憶しています。

森田会長

今のご発言は、スタンダードと関連したものということですね。

新谷委員

そうです。門真市授業スタンダードがあるのだなということを念頭に置いて検討していたと思います。

ただ言語能力の育成ということに限ってということではあったのですが、実際に授業スタンダードがどういったものであるのかということについては、この計画の中には詳しくは書かれていませんので、一定のスタイルがあるのだなという理解に留まっています。

森田会長

子どもの学ぶ意欲向上部会ではそのようなご検討をいただいていたとのことでした。

ということで、すでに4年間程普及をめざし、授業の中に組みこまれて使われてきたのですが、もう一度、新しい学習指導要領を見据えて、主体的、対話的で深い学びを実現するためのスタンダードとなるように検討していただければというのが、ここに書かれている内容です。

佐久間委員

部長がおっしゃった子ども理解であるとかパターン化による形骸化をしないようにということが行間に込められていることは理解できるのですが、どのように改善して、どのように周知徹底していくのかということで、変な方向になるとよくないなと思い、お伺いしました。

森田会長

主体的、対話的で深い学びを一層進めるためとしておけば、一定、枠がはまるのかと思います。

新谷委員

改善という点で中身について、もう一度、この機会に検討する必要があるのかなどは感じます。

事務局（満永教育部長）

委員長、少し補足説明をさせていただきたいと思います。

佐久間先生のご心配はよく分かります。いろいろな学校を回られている中でそういったことを感じておられるのかもしれませんが。私どもも今後、スタンダードの改善をどのように進めていくかということについて、各校の学力向上担当者を招集し、協議しているところです。その周知については、教育センターが「教育センターだより」を作成し、そこに授業の課題や改善の方向性、子どもを中心にそえたスタンダードに改善していくといったこと、教育センターと各学校の担当者が話し合っているというシステムのことを掲載し、各学校にむけて印刷・配布して周知を図っております。

森田会長

もうすでに改善についても進めていただいていますので、入れさせてもらってもいいですかね。ただ深い学びが入っていないので、入れないといけませんね。

例えば、「主体的・対話的で深い学びをひきだす授業を一層進めるため「門真市版授業スタンダード」の改善及び周知と普及に」にです。

いいですかね。

はい、ではその他いかがでしょうか。

川村委員

いいですか。

森田会長

はい、どうぞ。

川村委員

上から3行目の「増やして行く」の「行く」はひらがなの方が良いと思います。

森田会長

はい、ひらがなにしましょう。

森田会長

はい、その他いかがでしょうか。

あと、正式名称を入れさせていただきましたけれども、このようなかたちで市民の方も分かるかなと思いますが、どうでしょうか。そのように判断させていただいてよろしいですか。

はい、その他いかがでしょうか。

よろしいですか。みなさん事前に見ていただいているということで。また後で戻っていてもいいかと思しますので、次に行きましょうか。

では、次も同じように続けていきたいと思しますので、事務局よろしくお願ひします。

事務局（中野教育総務課長）

(2)「チーム学校」の構築に向けて

学校の教育力・組織力を向上させるため、また、昨今、指摘されている教員の多忙化の解消を目指すためには、校長のリーダーシップの下、様々な人材が一丸となって適切に機能する組織の確立、いわゆる「学校組織マネジメント」の推進が重要となっています。

また、今後、学習指導要領の改訂に伴い、道徳・英語の教科化、プログラミング教育などによる新たな指導内容が増加することなどもあり、学校への支援が求められます。

このような観点から、教員と教員以外人材が適切な役割分担を行い、様々な情報を共有しながら課題解決に取り組む「チーム学校」の体制を構築していく必要があると考えます。

具体的に、これらの課題を解決していくためにはスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの拡充、教育活動を支援するための支援員を派遣するなど、「チーム学校」を進めるための人員配置について検討を求めます。

森田会長

ありがとうございます。

では、答申書（案）「2・提言の(2)」の記述部分でご意見ございませんでしょうか。

新谷委員

2段落目で「今後、」となっていますが、先ほど佐久間先生が言われたことと同じになりますが、道徳は教科化されていますので、近年の学習指導要領改訂に伴いとした方が落ち着くかなと思います。

森田会長

「今後、」となっているところですね。カットした方が良いでしょう。近年ですか。

新谷委員

近年にした方が良くかなと。今般のとなるとこの4月からになりますので。

森田会長

道徳の教科化は順次していくので、どうですかね。カットでも良いんじゃないですか。近年も今後もない方が良くんじゃないですか。

新谷委員

その方がいいかもしれませんね。

森田会長

はい、分かりました。ありがとうございます。

国吉委員

第1段落の2行目ですが、目指すが漢字になっていますが、私はひらがなの方がいいかと思いますが、いかがでしょうか。確かにこう書きますが、目を指すという漢字に違和感を感じますので。

森田会長

ひらがなが良ければひらがなにしましょうか。よろしいですね、ひらがなで。他にも目指すがあるかもしれませんが、目指すがある場合はひらがなにしましょう。

新谷委員

3段落目で、「教員と教員以外人材が」の所で「の」が抜けていますでの、「教員と教員以外の人材が」にした方が良くと思います。

森田会長

はい、ありがとうございます。

だいたいこれぐらいですかね。

はい、次に行きましょう。では、続いて事務局、よろしくお願いします。

事務局（中野教育総務課長）

(3) きめ細やかな指導ができる教育環境づくりについて

門真市独自で行っている任期付教員配置による少人数学級編制については、きめ細かく指導を行うことができるとの校長や教員の意見も多く、一定の事業効果はあったと考えられます。しかしながら、学力テスト結果や学習意欲の向上等に関する定量的な検証結果については、現時点では明確な効果が表れていないことが示されました。

この任期付教員配置による少人数学級編制については、生徒指導上の課題の多様性

や、学校の実状を勘案し、今後の学習指導要領改訂も踏まえ、「チーム学校」の観点から、学校の裁量を拡大し、柔軟な人材活用を可能にするなど、制度の発展的改善の検討を求めます。

また、現在、小学校から中学校に進級した際に生じる、いわゆる「中1ギャップ」の対策として、門真市では小学校での学級担任制と中学校での教科担任制という制度上の違いも踏まえ、高学年を中心に、専科教員が授業を行ったり、学級担任であっても他クラスで指導を行ったりするなど、指導方法の工夫をしていますが、学校規模によっては困難な場合もあります。

また、小学校、中学校の校種を超えた兼務発令による教員交流や、夏季休業中における小中の合同会議等、小中の壁を乗り越える様々な取組が実施されていますが、物理的・時間的に限界があります。

今後は、より一層、子どもの発達段階を重視した取組を進めるため、他市における教育環境づくりの先進事例を調査し、義務教育学校、小中一貫校等の研究をしていく必要があると考えます。

森田会長

はい、ではこの部分はいかがでしょうか。

川村委員

段落についてですが、2段落「この任期付教員配置による」のところは検討を求めている、次の段落の「また、現在」のところは現状の説明をして、最後に「必要があると考えます」という文章になっているので、2段落目の検討を求めるのは学校の裁量とか柔軟な人材活用は、上の段落の学力テスト結果等だけではなくて、少人数学級をしているけれど、人材が足りないとかいろいろなことを含めて学校の裁量を拡大したり、柔軟な対応をできるようにしたらいいんじゃないかという話し合いだったんじゃないかなと記憶しています。だからここにもってくるより、現状を上にして、1段落目はそのまま、「また、現在、小学校から」の中1ギャップを上段に持ってきて、「この任期付き」を下に下して、学力の結果もそうだし、高学年の中1ギャップを乗り越える取組もしているけれど、教員の時間などの問題もあるので、裁量を拡大して、人材活用を可能にする、と持っていった方が、よりやらないといけないのかなって思ってもらえるんじゃないかなと思います。

森田会長

具体的には2段落目と3、4段落目を入れ替えるということですね。

川村委員

「この」を「このようなことから、任期付教員配置による少人数学級編制について」とし、「ついては」ではなく「ついて」にする、任期付教員配置による少人数学級編制

についての課題の多様性とか。「少人数学級編制」や「生徒指導上の課題の多様性」、「学校の実状を勘案し」、のこの3つは同じ並びにして、これらに問題があるから少しそこを検討したらというようにもっていった方がいいかなと思います。

森田会長

どうでしょうか皆様。入れ替えても良さそうな感じはしますね。
任期付教員配置による少人数学級編制の課題と中1ギャップ

川村委員

任期付教員配置による少人数学級編制の制度の具体的検討ということですよ。

森田会長

そうですね。

川村委員

だから、任期付教員配置による少人数学級編制の制度そのものがこのような理由から、そのもの自体を学校の裁量を拡大したり、柔軟な人材活用を可能にするような制度の改善をするということですよ。

森田会長

そうですね。そういう議論でした。

佐久間委員

上2つの段落は任期付教員のことでしょけど、下は小中一貫校について述べようとしている気がします。しかも段落がまた、またと繋がっているのは文章として非常によくないので、接続詞をどうにか変えれば。

川村委員

それだけではなくて、全部を踏まえての。

佐久間委員

多分、上はチーム学校の観点の学校裁量の拡大です。下は小中一貫校をやっているという、中1ギャップもあるし小中でいろいろやっているけれど、大変なので小中一貫校をやっていこうというのが下3つです。

川村委員

最終的には、それも踏まえてのここにくるわけではないんですか。

佐久間委員

最終的に任期付教員をどうしようという話ではなくて、上は上で、下は下という感じだと思うんですが。

中川委員

すいません、川村委員と同じ部会なので説明させていただきます。小中一貫校、義務教育学校ができあがるのはまだまだ先ですが、小学校で言えば教科担任制を導入するために、人が使いたいとか、35人学級にこだわらずに、学校独自でこどもの課題とかこういう人が必要というのがそれぞれ違うので、できれば柔軟性があるほうが現場としてはありがたいというのが、部会で話していたことで、それをおっしゃってもらっています。

佐久間委員

よく分かりました。

中川委員

関連もあるにはありますが、でもただどうまとめるかはなかなか。

35人学級の分と小中一貫校のテーマごとに分けた方がいいのか、だからこそ今早急に手を打てることとしたら現場としたら、そういうふうに頂ければありがたいというのをまとめにするのかというのが。ポイントが違ってくるけれど、同じことを(3)に入れてしまっているので、どうまとめていいのか。

佐久間委員

さらに先に説明のあったチーム学校のことここに入れてしまっているので、いったいどう使われるのかが見えてこない。非常に重要なことなので、すっきり分かりやすい文章になればいいなと思うんですが。

森田会長

ポイントは何になりますか。チーム学校はここには入れない方がいいですか。

佐久間委員

それはそれで必要だと思います。

森田会長

必要ですね。

川村委員

あと中1ギャップの対策としてとなったら、対策としてこれしかやっていないのか

なという印象を持たれかねないので、これも対策の1つとしてとかがあった方がいいのかなど。いろいろなことをしているけど、先生も一杯一杯でということがここにはまず背景としてあるということですよ。

森田会長

今のことは2段落目の3、4段落目を入れ替えていただけますか。任期付教員配置に関する課題がありますよと。それから中1ギャップの課題もあります。それらの課題を裁量の拡大や柔軟な人材活用を可能にすることで、解決できるようにしていきましょうという。

新谷先生

(3)で言いたいのは任期付教員配置については学校裁量にしてほしいということと、小中連携を進めるうえで他市の事例を調査してほしいという2つですね。

森田会長

そうですね。任期付教員の使い方を学校の裁量に基づいたものにし、ギャップとかを乗り越えて小中一貫校を作っていく時の基本的なことを調査し、取り組みをすすめます。

2段落目までと3段落目以降で少し違うことを書いている気もしますが。部会の方では違和感ありますか？

中川委員

違和感というか、全部ひっくるめて現場に役立つように使わせてほしいなというのが部会の中の意見であったかなというところなので、それが強調されるためにはどちらの課題も含んでそういうかたちになってほしいなという、何と答えればいいのか分かりませんが、違和感と言われると少し違う気もします。

佐久間委員

言えば言うほど混乱すると思いますので、提案に沿って順序を入れ替えて接続詞だけ整えれば、文章は繋がるし川村委員、中川委員の言うような部位も含まれるかなと思いますので。一旦2段落目の「この任期付教員配置に」を下に回して、行を詰める。

川村委員

このようなことからとまとめたかったんですね。そうしたらアピールできるかなと思って。

佐久間委員

まず2段落目に移動させる。上の段落の「また」が続くので、「さらに」に変えて、

それで文意は通るかなと思います。

1段落目が問題定義で、2段落目、3段落目はそのさらに詳しい説明があって、4段落目、5段落目が結論その1、結論その2です。結論その1は学校裁量で、結論その2は小中一貫教育校となります。

「今後は」の前に「または」が入ってもいいですが、「または」が続くので変になりますね。

森田会長

一回、読んでみてもらっていいですか。

事務局（中野教育総務課長）

門真市独自で行っている任期付教員配置による少人数学級編制については、きめ細かく指導を行うことができるとの校長や教員の意見も多く、一定の事業効果はあったと考えられます。しかしながら、学力テスト結果や学習意欲の向上等に関する定量的な検証結果については、現時点では明確な効果が表れていないことが示されました。

また、現在、小学校から中学校に進級した際に生じる、いわゆる「中1ギャップ」の対策として、門真市では小学校での学級担任制と中学校での教科担任制という制度上の違いも踏まえ、高学年を中心に、専科教員が授業を行ったり、学級担任であっても他クラスで指導を行ったりするなど、指導方法の工夫をしていますが、学校規模によっては困難な場合もあります。

さらに、小学校、中学校の校種を超えた兼務発令による教員交流や、夏季休業中における小中の合同会議等、小中の壁を乗り越える様々な取組が実施されていますが、物理的・時間的に限界があります。

このようなことから、任期付教員配置による少人数学級編制について、生徒指導上の課題の多様性や、学校の実状を勘案し、今後の学習指導要領改訂も踏まえ、「チーム学校」の観点から、学校の裁量を拡大し、柔軟な人材活用を可能にするなど、制度の発展的改善の検討を求めます。

今後は、より一層、子どもの発達段階を重視した取組を進めるため、他市における教育環境づくりの先進事例を調査し、義務教育学校、小中一貫校等の研究をしていく必要があると考えます。

新谷先生

最後の「今後は」を「加えて」などにした方が良いと思います。

森田会長

そうですね。最後が少しおかしかったですね。あとは良さそうですね。

川村委員

細かいことですが、「少人数学級編制について」のところは、もともとの文章の方が聞きやすかったですかね。「少人数学級編制については」の方が。

森田会長

これは学校の裁量を拡大することで中1ギャップの対応をしていこうという議論になったということですか。どういうイメージですか？

佐久間委員

これは35人学級にするための門真市独自の加配が人数が少ないので、効果がよく分からない。35人学級で固定するのではなくて、様々なチーム学校や外部人材を活用しましょうということですか。

森田会長

それは分かりますが、中1ギャップは？

佐久間委員

中1ギャップとは直接関係ありません。議論とは関係ありませんが、中川委員の話を見ると、小中一貫校にもなかなかすぐにはならないので、学校裁量で小中一貫の教科担任制なども必要に応じて使えればいいなという話もあったということなので。

森田会長

小中一貫で裁量に応じて使うというのはどういうことですか。

中川委員

小中一貫というか、今は35人学級のためだけにしか使えませんが、そうではなくて、5年生、6年生で教科担任制をするために人を配置したりという、例えばうち小学校はその人を教科担任制に使いたいとか、うちの学校はより少人数授業をするのにこの学年やこの教科のために増やしたいとかという中の1つなので、全部が全部小中一貫や義務教育学校に当てはまるわけではないんですが、それも踏まえた上で各学校の使いたいところに使えるような加配をもらえる方が現場としては、各学校の事情がありますので、これだけで使ってくださいというよりありがたいということです。一つまとめてという訳ではないんですが。

森田会長

小中一貫というのは小学校と中学校と違う学校の話だから、ある学校は裁量でしたりということとは可能なんですか？つまり小中と一貫した学校なら分かるんですが、小学校が教科担任制やりますと言っても、中学校と話していないと話がおかしくなりま

す。研究する必要があるという中で解決すればいいという気がするんですが。

小中一貫のところを裁量できますよというのはどうなのでしょう。

新谷委員

少し前の段落の物理的・時間的に限界がありますという忙しい中で小中連携はしんどくなるというところの多忙化の解消に使えるんじゃないかなという観点もありますし、問題定義を前半に、最後提言をまとめて後ろにという単純な文章構成という意味合いでいいかなと思います。

あと「加えて」のあとの「今後は」は消してもらってもいいかなと思います。「加えて、より一層」というのはおそろおそろ言っているような感じがします。

川村委員

「必要があると思います」は「必要もあると考えます」にしたほうがいいと思います。「少人数学級編成については」となったら下の生徒指導の課題の多様性なども全部、少人数編制にくっついてくるじゃないですか。そういうものが全て少人数編制についてはそういうものの観点から。

森田会長

そうですね。

川村委員

私の中では部会の話の中で、それはそれこれはこれで、すべてにおいて改善の予知があって、改善の予知として学校の裁量を改善し柔軟な人材活用をという認識だったんです。だから一番最初の少人数編制についてはというところを「ついて」ではなくて、少人数編制は少人数編制、それもそれ、生徒指導上の課題の多様性とか学校の実情も実情すべてを全部同じところに並べて考えた上で、そういう検討を求めますという意味で、「ついては」というところが、「ついては」でいいのかというところにこだわっているだけなんです。

事務局（満永教育部長）

我々これを施策にしていく立場でもありますので、ご質問させていただきます。

先ほどの「少人数学級編成については」の受け止めは、現在任期付教員は、少人数学級つまり35人学級を超えないようにする少人数学級編成の場合にしか配置できない。この制度について生徒指導や、その他いろいろな課題解決に活用できるよう制度の発展的改善につなげていけばどうかという捉え方というかご提言ですよね。

だから、川村委員がおっしゃったように並列という話とは違う気もするのですが。したがって、「については」と入れていただいたら、いま現在少人数編制にしている学級についても生徒指導の課題とかあるいは小中連携というところにも使えるような少

人数以外にも使えるような制度的発展改善をなさいと読み取れます。そのあたりのことがどうなのでしょう。

川村委員

そのようにも感じますね。分からなくなってきましたが。「については」で説明されていると言われればそうですね。そういうことが言いたいんです。

新谷委員

確かに（3）で2つのテーマが入っているというのがややこしくなっているとは思いますが。

事務局（満永教育部長）

「については」と入れていただければ、今現在少人数編制制度にしているものについては、このように改善していけばどうですかということになりますので、おっしゃっていただいたように少人数編制のためにしかしておりませんが、それを裁量にするように検討していくということになります。

その際に小中一貫とかで多忙化の問題とか小中一貫にもたとえばそういう人材を活用できないのかという選択肢も入るのかなと。いわゆる人員配置というソフト面において様々な課題に対応するとともに、例えば小中一貫を進める あればハード面においての一貫校なども研究なさいという、我々としてはその2つを受け止めることになりましたが、そういうことでしょうか？

川村委員

「現在門真市独自で行っている」としたらややこしいですか。

森田会長

上にも「門真市独自で」と書いてありますね。

川村委員

上には書いているので、読んでいけば分かりますか。

現在行っている今の編制について、こういう改善を求めますという。

森田会長

ということは、問題を先に定義してからということですが、ここに課題が2つあるということですね。この課題と解決という書き方よりも、先に課題を2つかいた方がいいという話がさっきあったと思いますが、そういうことですか。

川村委員

両方の課題の解決に向けて、2つ目の課題に対して裁量の拡大をしてやってもらえると先生の動きに幅がでてよりもっと子どもたちの指導に広く活用できるのではないかということです。

森田会長

それなら私もよく分かるので、解決方法としては学校裁量を増やすという、学校での判断をしてくださいということでもいいと思いますが、最後の研究をするというところはこれでいいですか？研究した上で、学校裁量でしてくださいという意味ですか？

佐久間委員

小中一貫校を作ることを研究するということですよ。

森田会長

そうですね。それでいうと今のこととどういう関係になりますか。

佐久間委員

本来別の話ですよ。

森田会長

別の話ですね。

佐久間委員

断片的にそこにも使えるようにした方がいいですね。

新谷委員

もし実際に研究してやるとなった時に、そこに研究期間というか移行措置の中で人を付けることもできるようになるかもしれませんし。

森田会長

それはまた別の話ですよ。

中1ギャップというか、小中一貫する上でもこの人材を使えますよね。学校裁量でやってくださいねっていうことを一つ言って、その小中一貫校の、人がどう動くかということよりは、小中一貫校ということのシステム自体を研究して下さいねってことなんですよ。その時人がどうこうというのは関係ない話というか、その後の話ですよ。だからどうしてもやっぱり2つあるような。

だから問題は2つあって、その2つの問題を学校裁量で解決して行って、学校の裁量を拡大することで対応していきましょう。と同時に根本的な小中一貫校の在り方に

については、研究していってくださいねということですね。

そうすると、最後が、「加えて」かな。

佐久間委員

蒸し返すようなことを言ったら嫌かなと思いますが、小中一貫校に関わる議論ってというのは、加えてでは本当はなくて、前回の部会でいうと、そこがメインだったんですね。だから、「加えて」というか、「なお」書きにするのは、微妙なニュアンスにすると少し違う、ところもある。

新谷委員

そうですね。まあ、じゃあ併記する形にした方がいいかな。加えて一回消していただいて。

佐久間委員

文意はあれでつながりやすいんですけど。はい。

新谷委員

課題が2つに対して提言2つというところの方が。どうしたらいいかな。「加えて」じゃなくて。

森田会長

つまり、課題…、そういうふうに読めるのかな。

佐久間委員

この前回の議論は、やっぱりここがメインで、この中に包括されている、今の議論が。答申自体がその順番になっていないので、

森田会長

今整理されたように、要するに課題は2つあるということを明確に書いて、その解決方法は、こういうようなことでやっていってくださいということを書いたらいいですかね。今の、蒸し返すっていった話は、何かこう文言を変えたら、うまく行くような感じですか。

新谷委員

文章構造から言うと、任期付教員の課題を提示しました、「また、」でつないで、小中一貫の課題を提起しました。それで、このようなことから任期付教員については、こういうふうな学校裁量の提言をします、で、「また、」と続けて、小中一貫にしますって、「また」を1つの文章の中で2つ使うことで。

佐久間委員

もしかしたら今出てる段落で言うとそれをひっくり返すだけで済むかもしれない。小中一貫校進めていく必要があるということで、やっぱり一旦そこで結論出しとして、そのためにという感じで任期付教員のことも語っておくとか。

新谷委員

そうすると、上の1段落目と2段落目も変えて、小中一貫から始まった方が。

森田会長

そっちの方がいいかもしれないですね。

新谷委員

その方が、つながりはいいですね。

森田会長

小中一貫の問題と、任期付教員の少人数編制の問題があります、と。それで、小中一貫に関しては、研究してくださいと。そして、またこの2つが、学校裁量を増やすことで、対応できる、その可能性も考えてくださいと。その方が分かりやすいですね。そしたら、そうしてもらえますか。

まず、問題の提起の仕方が、今、任期付が最初で、小中一貫ってというのが2番目になってるんですけど、逆転させて、中1ギャップの対策として、最初の3、4段落目を最初に持ってくるのかな。課題としては2つありまして、1つは、中1ギャップの対策としての様々な困難ですね、などがあります。それから2つ目に、任期付教員配置による少人数学級編成の在り方についてがあります。それで、前者に関しては、他市の先進事例なども研究して、新しい門真のモデルを作っていくように求めます。そして、2つ目の問題に関しては、学校裁量で取り組んでほしいんだけど、これが前者の問題にも関係しますってことを書いてもらったらいいんじゃないかなと。それでいいかな。それで文章になればすごくいいと思います。入れ子状になっているんですよ。2つの解決法が2つの問題に関係するよってということなんで。

でも学校裁量って基本ですからね。つまり、少人数編制の人間をどう使うかは学校裁量にしましょうって、これは新しいことだと思うんですよ。ひも付きじゃないよ、つまり、この役割をやってね、というものじゃないですよ。あとは基本ですかね。

川村委員

基本っていうのは、基本的にできているものなんですか。

森田会長

基本的に考えなきゃいけないことですね。

川村委員

実際、できているんでしょうか。学校現場で。いろいろな。

森田会長

誰をどういうふうにするかっていうことに関しては、やっぱり学校中で決めていると思いますよ。少人数編制は学校裁量でやってくださいということは、非常に新しいと思いますよ。

川村委員

門真は、少人数学級、35人学級の、担任としておくと。

森田会長

そうです。それしか使えないわけです。

川村委員

そうじゃなくて、担任じゃなくて、例えば、3クラスになるのを2クラスにして、っていう。

森田会長

そうです。そこが新しいです。まあ、多分そこが一番のポイントなんですね。このね。あと、小中一貫に関しては、まだまだ考えなきゃいけないことがあるんで、研究してってくださいと。その時に学校裁量の人間を使うかどうかは、それはその時の問題なんだと思うんです。学校裁量と交えない方がいいような気も、交えた方がいいですか？みなさん。まあ、部会でどういう話になってたかにもよりますが、やっぱり、小中一貫、まあ裁量で使えるっていうわけだから小中一貫にももちろん使えるってことは当然含まれるわけで、それをわざわざ書くかどうかの問題ですね。そのところですね。

新谷委員

ただ、学校裁量って言葉は、わざわざ書いた方がいいと思います。任期付のこの、少人数の話。

森田会長

少人数はもう学校裁量なんです。けど、この中1ギャップだとか、小中一貫についても学校裁量の人でも使えるよねっていうね。それは書かなくてもいいかなと。

新谷委員

その辺はちょっとあれですね。

川村委員

小中一貫が、実現しきれてない今だからこそ、そういうふう自由に動ける先生がいると、より子どもたちのきめ細やかな指導にはつながるんじゃないかと。

森田会長

他にも使わなきゃいけないわけですよ。

川村委員

そういうところにも、全てにおいて固定化された教師よりも、裁量で動ける人の方が、広い意味で、例えば授業に入れるとか、広く動けて、先生たちの負担も少しずつ楽になるんじゃないかっていう。だからこそ、それができていない今だからこそ、あえて入れた方がいいんじゃないかっていう。

森田会長

とすれば、もう一人裁量の人がほしいっていう要求になりますね。

まあ、それはよしとして、この小中一貫を作る上で、そういう自由に動ける人が必要だっていうことであるならば、

川村委員

作る上ででもないんです。

森田会長

でもないですね。

基本裁量で、っていうふうになってるわけだから、どう使おうとそれは学校が小中一貫が大事だと思えば小中一貫に使えばいいんじゃないかと。

まあ、裁量で使えるようにするっていうのが、ここの今の現時点での非常に大きなポイントですよ、画期的なとかいうか。今まではこういうふうに使ってねって言ったのが、いやそうじゃなくてもいいよっていうようになるわけだから。それを学校がどう使うかは、今度は学校のポリシーなのであって、その時に小中一貫が大事だとか生徒指導が大事だとか、いろいろな学校の状況があってその中で使っていったらいいっていうことなんで、そのことを言う必要はないんじゃないかと。言う必要ありますか。あれば入れても。

新谷委員

ちょっと一回変更履歴なくして、ざっと通してみたいんですけど、いいですか。

事務局（満永教育部長）

読ませていただいてよろしいですか。

森田会長

お願いします。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

現在、小学校から中学校に進級した際に生じる、いわゆる中1ギャップの対策として、門真市では、小学校での学級担任制と、中学校での教科担任制という制度上の違いも踏まえ、高学年を中心に専科教員が授業を行ったり、学級担任であっても、他クラスで指導を行ったりするなど、指導方法の工夫をしていますが、学校規模によっては、困難な場合もあります。

また、小学校、中学校の校種を超えた兼務発令による教員交流や、夏季休業中における小中の合同会議等、小中の壁を乗り越える様々な取組が実施されていますが、物理的、時間的に限界があります。

さらに、門真市独自で行っている任期付教員配置による少人数学級編成については、きめ細かく指導を行うことができるとの、校長や教員の意見も多く、一定の事業効果はあったと考えられます。しかしながら、学力テスト結果や、学習意欲の向上等に関する、定量的な検証結果については、現時点では、明確な効果が表れていないことが示されました。

今後は、より一層、子どもの発達段階を重視した取組を進めるため、他市における教育環境づくりの先進事例を調査し、義務教育学校、小中一貫校等の研究をしていく必要があると考えます。

また、このようなことから、任期付教員配置による少人数学級編成については、生徒指導上の課題の多様性や、学校の実情を勘案し、今後の学習指導要領改訂も踏まえ、チーム学校の観点から、学校の裁量を拡大し、柔軟な人材活用を可能にするなど、制度の発展的改善の検討を求めます。

森田会長

分かりにくくなりましたね。

やっぱり2つ問題を先に提示してしまうと、どれがどういう対応になってるか分からないと思います。この問題に関してはこういう解決を求めますと、この問題に関してはこういう解決を求めますっていう、こういう構造に戻して、おっしゃるように、裁量に関しては、学校裁量に関しては両方ともに書いてもいいなど。強くそういう風に提言がなされたらと。

今のだと、どれとどれが対応してるかちょっと分かりにくい。文章だけの問題じゃなくて構造の問題のような気がします。

新谷委員

順番は、先に制度の話から入った方が。

森田会長

それはそれでいいかもしれない。

新谷委員

小中一貫の。はい。順番はこれで。この下に小中一貫の研究の提言が入って。

森田会長

そうですね、研究しましょうと。色んな無理というか、不都合が出てるんで、研究しましょうと。そうして下さいと。

事務局（満永教育部長）

一回それで読ませていただいてもいいでしょうか。

川村委員

ここの、今後の学習指導要領改訂、今後のって、改訂されたら。

森田会長

学校裁量を両方につけたらいいわけですよ。そういう感じで。

新谷委員

このままでもいいんじゃないかな。何かこれですっきりした気はするんですけどね。

川村委員

何か、最後に持ってきたらもうこれでいいような。

森田会長

最後に学校裁量があったらね。

川村委員

その言葉が出てきたから、あえて入れなくとも。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

もう一回読みましょうか。

新谷委員

はい、お願いします。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

現在、小学校から中学校に進級した際に生じる、いわゆる中1ギャップの対策として、門真市では、小学校での学級担任制と、中学校での教科担任制という制度上の違いも踏まえ、高学年を中心に専科教員が授業を行ったり、学級担任であっても、他クラスで指導を行ったりするなど、指導方法の工夫をしていますが、学校規模によっては、困難な場合もあります。

また、小学校、中学校の校種を超えた兼務発令による教員交流や、夏季休業中における小中の合同会議等、小中の壁を乗り越える様々な取組が実施されていますが、物理的、時間的に限界があります。

今後は、より一層、子どもの発達段階を重視した取組を進めるため、他市における教育環境づくりの先進事例を調査し、義務教育学校、小中一貫校等の研究をしていく必要があると考えます。

さらに、門真市独自で行っている任期付教員配置による少人数学級編成については、きめ細かく指導を行うことができるとの、校長や教員の意見も多く、一定の事業効果はあったと考えられます。しかしながら、学力テスト結果や、学習意欲の向上等に関する、定量的な検証結果については、現時点では、明確な効果が表れていないことが示されました。

このようなことから、任期付教員配置による少人数学級編成については、生徒指導上の課題の多様性や、学校の実情を勘案し、今後の学習指導要領改訂も踏まえ、チーム学校の観点から、学校の裁量を拡大し、柔軟な人材活用を可能にするなど、制度の発展的改善の検討を求めます。

森田会長

いいんじゃないですか。

川村委員

いいような気がします。

森田会長

どうですかみなさん。いかがでしょうか。

じゃあそんな感じで、こういうことで、3番のことは、いいかなと思います。

もし何かあればみなさん。

事務局（満永教育部長）

事務局からちょっといいですか。

森田会長

はいどうぞ。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

1つ目が、学校の小中一貫に関する事で、2つ目が任期付、35人学級で、これ「さらに」でつなぐよりは「また」の方がいいような。

森田会長

「また」がいいですね。たしかに。「さらに」だとその話の延長になってしまうから。ちょっと段落のスペースはとっていただいて、段落と段落の間の。すいません。いろいろ、上行ったり下行ったり右行ったり左行ったりしましたけれども。大体こんな感じでよさそうですか。

はい、じゃあ、一応、皆さんの合意の上に。中川先生よろしいですか。

中川委員

はい。

森田会長

よろしいですか。じゃあとりあえず、4番に次は行きたいと思います。よろしくお願いします。

事務局（中野教育総務課長）

（4）子どもの自己実現に向けて

子どもの人間関係は授業内に限らず、学級活動・学校行事・クラブ活動・職場体験学習等全ての教育活動を通して育まれることが考えられますが、特に中学校生活の場においては、クラブ活動における人間関係の形成も重要であり、子どもの自己実現にも大きな役割を果たしています。

一方で、各クラブの顧問の指導における技術面の専門性や人事異動などによる継続性、また、休日なども含めたクラブ顧問の長時間勤務など、様々な課題に加えて、自分が望むクラブがないために思い悩む生徒がいることも事実です。

さらに魅力あるクラブ活動を実施するために、今後、門真市の中学校におけるクラブ活動の実態を把握しながら、外部指導員の活用、休養日の導入、学校の単位を超えたクラブ活動のあり方など、他市の取組等も参考に、総合的なクラブ活動のあり方の検討を求めます。

森田会長

はい、ありがとうございます。ここいかがですか。

新谷委員

ここ、クラブ活動、部活動、どちらの方にするかっていうことも、あるんですが、こちらの部会で話し合った、部活動の有無に基づく学校選択っていう話が入っていない

ので。一番下から、2行目くらいですかね。学校の単位を超えたクラブ活動の在り方の後ろに、などの前に、そこに点を入れていただいて、クラブの有無に基づく学校選択っていう内容を入れていただくと。それで、このクラブの有無に基づく学校選択について、他の市ではどうなのかっていうことを調査してほしいということが話し合われました。

森田会長

はい。かなり踏み込んだ内容ですね。

新谷委員

そうなんです。

佐久間委員

学校選択って割と、センセーショナルな言葉だと思うんですが、もう少し意図とか、議論の背景みたいなのを教えていただくと。

新谷委員

まあ、学校選択でなくとも、学校が選べるでもいいんですけども。

実際に前回の部会で、委員の方の中で、クラブ活動をしたいけども、校区の中学校にないと。他の市ではそういう時にどうしてるのかなあってということの話になりました。

実際、議事録にもありましたけど、人間関係重視して、なくてもその中学校に行くのか、クラブ活動をテーマにして、他の中学校に行くとしたら、その場合の交通手段とか、小中連携の在り方とか、その辺は、他の市でもしそういうことやってるとすれば、どういうふうなことをしてるんだらうという話が出たので、それも踏まえて、他の市の取組も検討してほしいっていう内容になりました。

森田会長

どうですか。

佐久間委員

学校選択って言葉は結構危ない言葉なので、それこそ学校つぶれることにつながるような言葉でもあるので、慎重に使うべきで、意図をきちっとして慎重に使わないと、これをよしとするような話になってくると、非常に危ないです。

新谷委員

学校選択という言葉をし少し削って、クラブの有無に基づく。

森田会長

学校の単位を超えた、クラブ活動の在り方みたいなところにそういう意味を込めて
るようなところも。

事務局（満永教育部長）

事務局からよろしいですか。

森田会長

はい、お願いします。

事務局（満永教育部長）

前回、新谷委員から、そういう他市の例を調べておきなさいと言われてまして、枚方
がやっておられまして、枚方は弾力的、通学区域の弾力的運用という言い方をされて
いるようです。

新谷委員

まあそれに基づいてもいいかな。

事務局（満永教育部長）

枚方はそういう表現をされているということでございますので、ご検討いただけれ
ばと思います。

森田会長

そうすると、何かこう、学校がつぶれるとかいうようなそういうような話は
、イメージからはずれてきますね。

事務局（満永教育部長）

枚方市では、何度も保護者やその子どもさんとかの話を聞いて判断するようです。

確か前回の部会の中で、そのようなお話が出ました。それで、門真市においても行
きたいクラブにいけないことがあって、子どもの自己実現のためにはどうなんだって
いう意見が出たって聞いております。

枚方でもそういうことがあって、通学区域制度の弾力的運用というかたちで行って
るということをお伝え申し上げます。

森田会長

その前の、学校単位を超えたクラブ活動の在り方っていうところに似てくるような
感じがしませんか？

新谷委員

これはまた少し議論が違って、例えば、人数が足りないので、隣の中学校と一緒にサッカーなりをします。その場合グラウンドどうするんだとかっていうのもまた。

森田会長

なるほど、ちょっと違う。

新谷委員

はい。メインは、教員の多忙化とか、地域人材の活用をどうするのかっていうのが、ありましたけれども。

森田会長

はい。じゃあ、これ、弾力的運用っていうことで。
その他いかがですか。

中川委員

すみません、細かいことなんですけども、一番最初の、学級活動、学校行事、クラブ活動の中で、職場体験学習だけが唐突に、総合学習の中で一つピックアップされてるなど。もちろん、中学校の中で職場体験学習が大きな学習の一つでもあるんですけど、それに関連したポスターセッションであったりとか、それ以外の部分でも、総合的な学習の時間でも色々とやるので、職場体験学習っていう言葉が。

森田会長

何か唐突ですねこれ。

中川委員

並列である中では、分かりにくい感じがただけなんですけど。

佐久間委員

こちらの部会で多分議論されている中では、学校内だけではなくて地域、様々なところで子どもは育まれるという中で、地域と子どもの接点になっている、市民の委員の方でいうと、職場体験学習に子どもたちが来るというのを目の当たりにして、というような発言が非常に重たかったのが、上がってるんですが、おっしゃるとおり、職場体験学習という活動だけがということではなくて、地域で子どもを育てる視点なんだなという気がしますね。

森田会長

地域っていう言葉を入れて、少し職場体験学習っていう言葉を一般化していくって

うか。その方がいいかな。

新谷委員

その意図で言うと、クラブ活動の後、中黒でなくて点にしておいて、職場体験学習など、地域と連携した、何にしよう。

森田会長

「地域と連携した教育活動」。

新谷委員

ですかね。活動などですかね。

森田会長

などを通して、「など」が2つ入ってしまう。

新谷委員

そうですね。職場体験学習、のようなかな。少し弱いかな。

森田会長

「をはじめとした。」

新谷委員

「をはじめとした」、ですね。

新谷委員

「考えられますが」、は丸で一回切った方が文がきれいかな。

森田会長

はい、ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。さっきの部活動にするのかっていう話はどうしましょう。

クラブ活動か、部活動かっていうことですか。

新谷委員

そうなんです。はい。

森田会長

これはどういう議論になってたんですか。部会では。

新谷委員

言葉のことはほとんど、クラブクラブって言ってたんですけど、正式には部活動かなど。

事務局（満永教育部長）

指導要領に基づいた方がいいと思いますので、調べます。

これは中学校の部活動を対象にしていると考えさせてもらってよろしいですね。

森田会長

そうすると、部活動ですかね。今調べていただいていますね。

その他、調べていただいている間に、何かありますか。

事務局（満永教育部長）

指導要領では、部活動です。

森田会長

部活動ですか。それなら。

事務局（満永教育部長）

「クラブ活動」を全て「部活動」と変えるということによろしいですか。

新谷委員

はい。

森田会長

これ、「望むクラブがないため」というところはどうですかね

これは「クラブ」でいいですね。ただ、何か、言ってることは、これ読んだら中学のことなんだけど、中学ということがあまり強調されずに書かれていて、最後中学校に、って書いてあるか。ありましたね、特になっていうのがあるので。いいですねこれで。はい。その他、いかがでしょうか。

じゃあ、クラブ活動を部活動に直すと。よろしいですか。じゃあ、これで、4番もよろしそうなので、最後、今後に向けてもあるんでしょうか。じゃあ今後に向けての部分お願いします。

事務局（中野教育総務課長）

3. 今後に向けて

本中間答申以降も、「門真市教育振興基本計画」の理念に基づく教育のあり方について今後の課題も踏まえながら、柔軟かつ活発に議論を重ねていきたいと考えています。

森田会長

はい。まあ、ということでございます。これはどうでしょうか、何か違和感ありますか。よろしいですか。活発に議論を重ねていきたいと考えています。

ということで、全体通しまして、何かこうもう一回振り返ってですね、さっきのところやっぱり気になるとかですね、もしあれば何かお伺いしたいんですが、どうでしょうか。

片山委員

すみませんよろしいですか。

森田会長

はいどうぞ。

片山委員

細かいことですが、文言で、「取り組む」と「取組」は使い分けられてるのでしょうか。「取り組む」は送り仮名が入ってるんですけど、「取組」は漢字2文字なんで。

森田会長

それちょっとどっちかに統一しましょう。

「取り組む」と「取組」。

片山委員

「取り組む」の時は送り仮名が入ってるんですけど、取「り」組「む」って入ってるんですけど、「取組」の時は「取」「組」って漢字2文字なんで。

森田会長

これは一般的にどうなんですかね。どっちがいいんですか。

川村委員

もしかしたら、その、今取り組んでいますっていうことに関しては、「取り組む」って言わなあかんくて、具体的に、「取組」っていう時には、送り仮名ふってないとかいうので、使い分けられてるのかなって。

国吉委員

そういう使い分けを、多分していると思います。

片山委員

使い分けしてるんでしょうね。それだったらいいんですけど。

森田会長

ちょっと確認してもらえますか。文章1個にしてもらって、取組だけを全部検索してもらって。その他どうでしょうか、今見たいな。さっきあった「目指す」をひらがなにするのもありましたけど、ちょっと漢字等でも、何かありましたら。

新谷委員

先ほどの「取り組む」について、この基本計画の方では、40ページなんか見ると、名詞活用する場合は「取組」で、送り仮名なしで。動詞活用するときは「取り組んでいます」っていう送り仮名付きで書いているっていう形です。これが正しいかどうかはちょっとまた確認しないと分かりませんが。

森田会長

その他どうでしょうか。よろしいでしょうか。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

すみません、1点よろしいでしょうか。

森田会長

はい、お願いします。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

一番最初で、これ、クラブ活動を部活動に変えました。その後ろに職場体験学習等っていう部分、ここは先ほど変更したんですけど、この部分はどうぞさせていただいたらよろしいでしょうか。

森田会長

さっきどうしたかな。職場体験学習等、地域と。

新谷委員

そうですね。地域と連携した教育活動かな。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

ここと全く一緒でいいですか。

新谷委員

同じの方が。新しい学習指導要領のコンセプトからすると、地域っていうのはちょっと入れといた方がいいかもしれないです。

森田会長

これ、一回、読んだ方がいいですか。読みましようかね。

事務局（満永教育部長）

事務局の方で全体通して読ましていただいでよろしいでしょうか。

森田会長

そうですね。もうその時は見え消しじゃなくていいと思うので、消していただいで。すみません、時間のびちゃって申し訳ないんですけど。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

1番から読ませていただいでいいですか。

森田会長

何か気付いたことがあったら言ってください。お願いします。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

通して読ませていただきます。

1はじめに、門真市魅力ある教育づくり審議会では、門真市教育委員会から、門真市教育振興基本計画の理念に基づく教育の在り方についての諮問を受け、本審議会を計4回開催し、うち3回は、子どもの学ぶ意欲向上部会、およびつながりのある教育の創造部会に分かれて、門真の子どもたちにとって、よりよい教育の在り方の議論を深めてまいりました。本審議会の審議は継続中ではありますが、現時点での門真市教育振興基本計画における施策展開の方向性などについて、審議結果を次の通り、中間答申としてまとめましたので、門真市教育委員会として平成30年度の施策立案に生かしていただくよう、提言します。

ここまでよろしいですか。

2提言の1。確かな学力と豊かな心をはぐくむために。子どもの夢と幸せをはぐくむため、主体的かつ、意欲的に取り組むことができる学習環境を整えることはもとより、授業、学級活動、学校行事、部活動、職場体験学習をはじめとした地域と連携した教育活動などを通して、子どもたちが自己肯定感を高める機会を増やしていく必要があります。現在門真市で行っている開発的生徒指導については、子どもと教員、大人との信頼関係を基盤とした指導を大切にしており、共感的な人間関係を築いていく中で、自尊感情を高め、将来の自己実現につながるものが期待されるものであり、引き続き学校現場への浸透を図りつつ、充実発展させていく必要があると考えます。ま

た、子どもたちの多様な学びの機会の実現のため、門真土曜自学自習室サタスタや、学び舎 Kids、学び舎 Youth など、地域や関係機関と連携した取組を引き続き充実させるとともに、今般の学習指導要領改訂を踏まえ、より多様な人間関係の中で主体的、対話的で深い学びを引き出す授業を一層進めるため、門真市版授業スタンダードの改善、および周知と普及に力を入れるよう求めます。

いかがでしょうか。よろしいですか。

では、2、チーム学校の構築にむけて。学校の教育力、組織力を向上させるため、また、昨今指摘されている教員の多忙化の解消を目指すためには、校長のリーダーシップのもと、様々な人材が一丸となって適切に機能する組織の確立、いわゆる学校組織マネジメントの推進が重要となっています。また、学習指導要領の改訂に伴い。

森田会長

なんか、組織の確立、いわゆるマネジメントっていうのがあるでしょ。様々な人材が一丸となって適切に機能する組織、いいのかな。言い換えている割に何か違う…、いわゆる学校組織マネジメントの推進、適切に機能する組織。

新谷委員

いわゆる削ってもいいかもしれない。並列にしてもいいかなと。

森田会長

いわゆる削ってもいいですね。これでいいじゃないですか。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

校長のリーダーシップのもと、様々な人材が一丸となって適切に機能する組織の確立、学校組織マネジメントの推進が重要となっています。また、学習指導要領の改訂に伴い、道徳、英語の教科科、プログラミング教育などによる新たな指導内容が増加することなどもあり、学校への支援が求められます。このような観点から、教員と教員以外の人材が適切な役割分担を行い、様々な情報を共有しながら、問題解決に取り組む、チーム学校の体制を構築していく必要があると考えます。具体的に、これらの課題を解決していくためには、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの拡充、教育活動を支援するための支援員を派遣するなど、チーム学校を進めるための人員配置について検討を求めます。

森田会長

すいません、自分で言うのもなんですが、カウンセラーの拡充っていうのは、これは、人間を増やすっていう意味なので、拡充より増員の方がいいでしょうね。

新谷委員

具体的ですね。

森田会長

具体的です。はい、増員でお願いします。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

では、3番、きめ細やかな指導ができる教育環境づくりについて。現在小学校から中学校に進級した際に生じるいわゆる中1ギャップの対策として、門真市では小学校での学級担任制と中学校での教科担任制という制度上の違いも踏まえ、高学年を中心に専科教員が授業を行ったり、学級担任であっても、2クラスで指導を行ったりするなど、指導方法の工夫をしていますが、学校規模によっては困難な場合もあります。また、小学校・中学校の校種を超えた兼務発令による教員交流や、夏季休業中における小中の合同会議等、小中の壁を乗り越える様々な取組が実施されていますが、物理的、時間的に限界があります。今後はより一層、子どもの発達段階を重視した取組を進めるため、他市における教育環境づくりの先進事例を調査し、義務教育学校、小中一貫校等の研究をしていく必要があると考えます。

また、門真市独自で行っている任期付教員配置による少人数学級編成については、きめ細かく指導を行うことができるとの校長や教員の意見も多く、一定の事業効果はあったと考えられます。しかしながら、学力テスト結果や、学習意欲の向上等に関する定量的な検証結果については、現時点では明確な効果が表れていないことが示されました。このようなことから、任期付教員配置による少人数学級編成については、生徒指導上の課題の多様性や、学校の実情を勘案し、学習指導要領改訂も踏まえ、チーム学校の観点から、学校の裁量を拡大し、柔軟な人材活用を可能にするなど、制度の発展的改善の検討を求めます。

森田会長

はい。これもずいぶんよくなりましたね。

川村委員

一番下、「現時点では」が2回。

国吉委員

2回入ってますね。上の現時点、下の現時点。

森田会長

多分一回スクロールしたら。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

あとで直します。

新谷委員

はい。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

とりあえず保存します。よろしいですか。

4番、子どもの自己実現に向けて。子どもの人間関係は授業内に限らず、学級活動、学校行事、部活動、職場体験学習をはじめとした地域と連携した教育活動などを通して育まれることが考えられます。特に中学校生活の場においては、部活動における人間関係の形成も重要であり、子どもの自己実現にも大きな役割を果たしています。一方で、各部の顧問の指導における技術面の専門性や、人事異動などによる継続性、また、休日なども含めた部顧問の。

新谷委員

部活動顧問。

森田会長

これは、クラブが部になったから。この上の、各部の顧問も、各クラブの顧問でいいのでは。

事務局（満永教育部長）

これでも、部活動っていう言葉は、指導要領で使われる文言です。クラブ顧問っていうのは一般的に世間に流布されている表現と言いますか。

中川委員

中学校では別に、2つとも

国吉委員

2つとも使ってるね。クラブ活動、両方とも。厳密に言うと、さっきの指導要領の言い方の方が正しいんだけどな。

中川委員

けれど、やっぱりクラブという方が多いですけどね。

森田会長

顧問の場合はどうですか。クラブ顧問か、各部の顧問か。

事務局（満永教育部長）

ちょっとわかりにくいですね。クラブ顧問の方が。

国吉校長

一般的には分かりやすいですね

事務局（満永教育部長）

いかがですか。上甲先生。

上甲委員

分かりやすいです。

中川委員

その方が伝わると思います。

森田会長

分かりやすい。伝わりやすい方がいいですか。

事務局（満永教育部長）

部活動だけ部活動にしておいて、あとはクラブにしたらいかがでございませうか。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

一方で、各クラブ顧問の指導における技術面の専門性や、人事異動などによる継続性、また、休日なども含めたクラブ顧問の長時間勤務など、様々な課題に加えて、自分が望むクラブがないために思い悩む生徒がいることも事実です。さらに魅力ある部活動を実施するために、今後門真市の中学校における部活動の実態を把握しながら、外部指導員の活用、休養日の導入、学校の単位を超えた部活動の在り方、クラブの有無に基づく通学区域の弾力的運用など、他市の取組等も参考に、総合的な部活動の在り方の検討を求めます。

よろしいでしょうか。

森田会長

はい。すーっと入ってきましたね。はい、ありがとうございます。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

3、今後に向けて。本中間答申以降も、門真市教育振興基本計画の理念に基づく教育の在り方について、今後の課題も踏まえながら、柔軟かつ活発に議論を重ねていき

たいと考えています。
よろしいでしょうか。

森田会長

はい。これでいきましょう。

はい、その他、これでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。じゃあ、これをもちまして皆様からご承認いただいたものとして、本答申書の案を、答申書といたしまして、中間答申書ですけれども、門真市教育委員会教育長に手交したいと思います。事務局の方で、ご準備をお願いします。

事務局（中野教育総務課長）

ありがとうございます。

それでは、答申書の手交をさせていただきたいと思います。ちょっと準備の時間をいただきたいと思ひまして、今 16 時 10 分過ぎなので、申し訳ございませんが、16 時半ごろに、準備整い次第ですね、お声かけさせていただくような形でよろしいでしょうか。とりあえず 16 時半くらいになりましたら、手交という段取りで行きたいと思ひますので、また席の方にお戻りくださいますよう、お願いいたします。

終わりに際しまして、部長からあいさつの方、させていただきますので、お願いします。

事務局（満永教育部長）

森田先生、皆様方、本当にありがとうございました。中間答申ということで、まだ今後、これから議論が続いていくということで、来年中には最終答申を頂けるという予定でございますが、28 年 11 月から 2 か月間、5 回にわたりまして、本当に門真市のために、真剣に、門真市の子どもたちのために、ここまで真剣にやっただけましたことについては、我々事務局としても、心引き締まる思いがしています。

とりわけ今日の答申につきましても、ここまで真剣に考えていただいて、これはもう、このいただいたものをきちっと政策なり、事業なりにして、門真の子どもたちにとって、門真の学校にとって、あるいは門真の地域にとって、より良い教育施策を作っっていかなければならないと、決意を新たにしたところでございます。

森田先生には、ご多忙中にも関わりませず、これまでの議論からエキスを抽出して、中間答申の原案を作成・提示して下さったことに心から感謝申し上げます。

さらには、本日も司会進行という大役を務めていただき、委員の皆様方の率直かつ有意義な意見をたくさんお引出しくださり、中間答申案をまとめ上げて下さったことに、本当に感謝申し上げますとともに、身の引き締まる思いをしております。

本日は誠にありがとうございました。なお、今後とも引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

森田会長

では、しばらく、休憩ということよろしいですか。

事務局（満永教育部長）

はい、ではいったん休憩とさせていただきます。

《 休 憩 》

森田会長

それでは、準備が整ったようですので、審議会を再開します。
事務局、お願いします。

事務局（中野教育総務課長）

それでは、答申書の手交に移らせて戴きます。
久木元教育長、お願いいたします。

《 答申書の鑑文を朗読し、教育長に手交を行う 》

久木元教育長

中間答申、本当にありがとうございました。森田会長をはじめ、委員の皆様方、本当に活発なご議論いただいたというふうに聞いておりますけれども、この受け取らせていただきました答申書、しっかりと内容を受け止めながら、そして、委員の皆様方の会議でのご発言、提言、それもしっかりと受け止めさせていただいて、これからの教育施策の推進に努めてまいりたいと考えております。最後、また、最終答申まだございますけれども、また引き続き、ご協力賜りますこと、そして御礼を申し上げまして、挨拶とさせていただきます。どうも、本当にありがとうございました。

事務局（中野教育総務課長）

ありがとうございました。
久木元教育長に関しましては、公務により、ここで退席させていただきます。

○4.その他

森田会長

それでは、案件4.「その他」についてです。事務局からお願いします。

事務局（中野教育総務課長）

次回の第6回魅力ある教育づくり審議会の日程でございますが、11月7日（火）14時からを予定しております。場所は現在調整をさせていただいておりますので、後程皆様にご連絡させていただきます。

なお、次回からの審議会についてであります。資料4「門真市魅力ある教育づくり審議会 今後の流れ（案）」をご覧くださいませでしょうか。

第4回の審議会におきましても少しご説明させていただきましたが、機構改革に伴い、今年度4月より「こども未来部」が新たに「こども部」として教育委員会から市長部局に移りましたので、討議のテーマを変更しなければならないケースがございます。

具体的には、第6回、第7回の審議会にて予定しております、「つながりのある教育の創造部会」における「子どもの居場所づくり」、「就学前教育・保育の環境づくり」などでございます。

「子どもの居場所づくり」に関しましては、現在、こども部こども政策課が中心となり、大阪府の補助金事業として「子どもの未来応援ネットワーク事業」を進めているところでありますので、教育委員会といたしましては、協力・連携を一層、深めていくというところでございます。

「就学前教育・保育の環境づくり」に関しましては、保育幼稚園課が、メインとなるところでございますが、こちらもこども部へと移りましたことから、討議内容については、変更をさせて戴きたいと考えております。

今後の討議のテーマに関しましては、庁内にて検討を行ったのち、第6回の審議会より前に皆様にご報告させていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

森田会長

ありがとうございました。今の説明について、何かご意見、ご質問はありませんか。

佐久間委員

お願いを申しあげることですけども、基礎的なデータを見繕っていただいて、関係するデータですね。議論がしやすいように、ご準備いただけたらなと思っております。よろしく申し上げます。

森田会長

はい。実証的にエビデンスに基づいて議論していきたいと思っておりますので、どうぞよ

ろしくお願いします。

その他、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、ないようですので、これで「第5回門真市魅力ある教育づくり審議会」を終了させていただきます。

本日は皆様、ちょっと時間が伸びてしまって、大変申し訳ありませんでした。しかしまあ、ホントに、門真を愛する皆さんの意見がたくさん出てですね、いい形の間答申ができたというふうに思っております。皆さんのお力のおかげで、まずここまでこれたことを感謝申し上げたいと思います。今後も、どうぞよろしく願いいたします。今日は長い時間、ありがとうございました。